

【暗唱聖句】

ヤコブ 3:16 「ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあるからです」

【今週のポイント】 平和と安らぎを奪う不満の根にあるものを学びます。

【日曜日・イエスは分裂をもたらす】

イエス様は、マタイ 10:34 で「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ」と言われました。その結果、家族の中でさえ仲たがいが生じると言うのです。これはミカ 7:6 の「息子は父を侮り、娘は母に、嫁はしゅうとめに立ち向かう。人の敵はその家の者だ」という言葉の引用でもあります。イエス様は平和の君です。確かに、イエス様を主として受け入れるとき、心の中に平和が訪れます。それはこの世のものとは全く違う平和です。しかし、同時に主を受け入れない人との間には、不和が生まれる可能性があります。たとえそれが家族であってもです。もちろん、私たちがそれを望んでいるわけではありません。私たちは平和を求めます。しかし、イエス様を否定する人たちは、敵意をむき出しにしていることがあるのです。そのような状況の中で、もし家族との関係を優先するならば、イエス様はこう言われます。

「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない」マタイ 10:37, 38

「わたしにふさわしくない」という言葉を3度繰り返しています。クリスチャンとしてふさわしい生き方とは、イエス様との関係においてははかられるものであり、イエス様を常に第一として選ぶことにおいてふさわしいものとみなされます。私たちは家族と争うのではなく、神様に委ねて神様の時を待つのです。先のミカは家族との争いの中で、「しかし、わたしは主を仰ぎ、わが救いの神を待つ。わが神は、わたしの願いを聞かれる」（ミカ 7:7）と言います。これが正しい態度であり、このとき回りに争いがあったとしても、主との関係においては常に平和を保つことができるのです。

【月曜日・利己心】

ルカ 12:13, 14 「群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」

私達もこの群衆の一人のように、自分の得のために主に祈ることがないでしょうか。利己心は心から平和を奪います。特に遺産争うほど醜いものはありません。そのような兄弟同士の争いで自分の利己心を満ち、自分が有利になるように祈るとするならば、イエス様がどのようなお気持ちになるか想像する必要がありそうです。イエス様は、「どんな食欲にも注意を払い、用心しなさい」（ルカ 12:15）と言われました。そして、どれほどお金があっても、命が取り去られれば、何の意味があるかとたとえ話を通して教えられたあと、「神様のみ前に豊かになるように」（12:21）と教えられたのでした。そのとき利己心は消え、平和が戻って来ることでしょう。

【火曜日・野心】

ルカ 22:24 「また、使徒たちの間に、自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか、という議論も起こった」

最後の晩餐の席において、弟子たちの間にだれがいちばん偉いだろうかという議論が起こります。実は、誰が一

番偉

いのかということについて、この少し前に弟子たちは一度イエス様にこう尋ねています。

マタイ 18:1 「そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」

この弟子たちの質問は、天国の本質を教える上で重要な質問でした。そこで、イエス様は一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせてこう言われました。

「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない」
(マタイ 18:2, 3)

天国は、幼子のような心を持ったものが入れる世界だということです。つまり、誰が一番偉いのかということなど考えないものたちの世界だということです。それにもかかわらず弟子たちは、最後の晩餐の席で、再び「自分たちのうちでだれがいちばん偉いだろうか」と議論するのです。このような野心的な心は捨てなければなりません。誰かと比較などせず、天国に招かれていることを単純に喜び、感謝すれば良いです。

【水曜日・偽善】

マタイ 23 章には、偽善という言葉が 7 回も出てきます。イエス様は偽善者に対して、「あなたたち偽善者は不幸だ。人々の前で天の国を閉ざすからだ。自分が入らないばかりか、入ろうとする人をも入らせないと、厳しくけん責されました。イエス様は偽善者の特徴についていくつかのことを語っています。

① 言うだけで実行しない。(23:3) ②他人にだけ背負いきれないような重荷をかす。(23:4) すべて人に見せるため

に宗教的な行為をし、称賛を求める。(23:5) ④神様ではなく自分に誉れと栄光を帰そうとし、『先生』と呼ばれることを好む。(23:7) などです。このような傾向がある場合、偽善に注意しなければなりません。

【木曜日・不満を根絶する】

イエス様は、ヨハネ 14:1 で「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい」と言われました。心が騒ぐとは、精神的な休みを得ることができない状態にあることを意味しています。心を騒がせず、落ち着いた心でいるためには、「神様を信じ、わたしを信じる」ことだとイエス様は言われました。神様を信じる時、心は不思議な平安に包まれます。イエス様はさらに、「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネ 14:6) と言われました。他にもっと良い道があるのではないかと探してもありません。他に真理と呼べるものがあるのではないかと探してもありません。イエス様こそが真理であり、私たちが歩むべき道なのです。これが明確になると、命がそこに輝いていることを知ります。結局のところ、私たちはこの命を得るのか、それとも失うのかの 2 つに 1 つの選択することになるのです。命とは、永遠のみ国における命のことであり、そこに父なる神様がおられます。イエス様を通らなければ、だれもこの神様のもとに行くことはできません。これは初めから決まっていることです。

私達はいま、永遠の御国への道の上を歩んでいます。それなのに、なぜ、後にする地上に対して、不平不満があるのでしょうか。不満を根絶する鍵は、永遠の御国を見つめることであり、御国へと通じる道なるイエス様を見つめることです。